

## Sis. カヴィタ チャブラニの体験談

2013年11月23日（土）ご降誕祭でのスピーチ

神がこの地球上を歩いておられたときに、私たちが人間として生まれたことは、本当に祝福されていることであり、スワミを知り、スワミのダルシャン、スパルシャン（スワミの御身に触れること）、サムバーシャン（スワミと直接会話すること）を授かるという特権を得たことは幸運なことです。スワミの眼差し、感触、黄金の御声によるご講話や、旋律の美しいバジャン。これ以上の偉大な祝福を望むことができるでしょうか？

本日、ここで皆さんの前で、先日私が体験しましたことを分かち合う機会を与えてくださったことに対して、そして私が今もまだ生きていて、私自身の手でマイクを持ってお話することができることに対して、私は親愛なるスワミへの計り知れない感謝の気持ちでいっぱいでございます。私たちの人生の毎瞬、どれほどスワミが私たちの面倒を見てくださり、世話をしてくださり、守ってくださっているかを、私は悟ることなく普段当たり前のことと感じていました。私たち夫婦へのスワミの神聖な祝福でなければ、他に何がこのようなことを成しえることができたでしょうか。

今年の7月、私は主人と共にプッタパーティで開催されましたグループニマー祭に参加しました。私はプッタパーティを訪れるたびに、常にスワミの遍在を強く感じておりましたが、また再び何度も、疑念が私の心に浮かびました。

「スワミ、どうして私たちのもとを離れられたのですか？ 逝ってしまわれたのですか？ 私たちはこんなにもあなたのことを必要としています。お会いしたいです！」  
そしてスワミの声がしました。

「私はここにいます。私はどこにでもいます。私はあなたの内に、そしてどこにでもいます。私はあなたのフルダヤ ニヴァーシー（ハートの内在者）です。私のバジャンと名前が唱えられるところには必ずいます。どんなときも私を憶念しなさい。そうすればあなたは私の存在をどこにでも感じることができるでしょう。絶え間なく神を意識し、いつでも私と接触しなさい。私への完全な信仰を持ちなさい。1%の疑いは100%の信仰を意味しません」

私は心にこの信念を抱き、スワミの遍在で満たされて、私たちは7月30日に日本に帰国する予定で、帰路の途中でムンバイに滞在していました。

7月27日、私たち夫婦は、自宅から10分ほどのところに住んでいる友人から夕食に招待されていました。夜の9時は暗く、ひっそりとしていますので、友人宅には徒歩ではなくリキシャで行くことにしました。短距離に行くにはリキシャはインドではとても便利なのです。（リキシャは、日本人の方はご存知ですか？ 知らない方はおられますか？ オートバイに2人分のスペースの座るところを覆い、両側にはドアがなくオープンになっている乗り物です）そして、9分ぐらい走ったところで、突然一筋の強い光線が私たちに向かって照らされ、キーキーという金切り音がした途端、大きな衝突音が響きました。

突然リキシャが横転し、私はリキシャから落ちて、シートから道に投げ出され、頭を地面に強くぶつけてしまいました。背中も強く打ち、肩甲骨は地面にお皿が落ちて割れるようにひびが入りました。私の腕は打撲傷を負いました。私は完全にたたき出されて、いつのまにか暗闇の静寂の中に漂いました。主人が「サイラム、サイラム」という叫び声をあげていたのを聞いたあと、私は意識を失いました。

次に目覚めたときには、見慣れない病院の中でした。起き上がろうとしましたが、私の肩は包帯が巻かれていて、めまいがしました。頭に触れると、そこにも包帯で巻かれていました。私は動くこともできず、痛みのため「アァー！ サイラム サイラム スワミ、あなたはどこにおられるのですか？」と叫んでいました。

突然、私のそばに制服を着た看護師らしき人が現れて、心配そうに尋ねました。

「大丈夫ですか？」 私は尋ねました。

「私がどこにいるのか知りたいのですが・・・」

彼女は私を安心させるように、

「あなたはヒンドゥージャ病院の集中治療室にいます。あなたは昨晚、事故に遭い・・・」と、状況を説明してくれました。私の頭は痛みのためにズキズキと脈打ち、パニックになりました。ようやく私が言えたことは、

「主人はどこですか？」でした。彼女は優しく言いました。

「心配しないでください。ご主人は外にいらして、あなたが目覚めるのを待っておられます」 私は言いました。

「主人を呼んでください」

主人が部屋に入ってきたときは嬉しさが溢れてきました。私は主人が顔に少し傷があるだけの軽傷で元気なことがわかり、スワミに感謝しました。スワミは私たちの面倒をみてくださったのです。スワミは私たちに第二の人生を与えてくださったと言えます。スワミは私たちを大事故から救ってくださったのです。

それから主人は何が起こったか、事態の全容を説明してくれました。偉大な奇跡が起こったのです。スワミが毎瞬、私たちの面倒をみてくださっていたのです。車がどこからともなくやって来て、リキシャに激突し、その車はひき逃げをして、夜の暗闇に消えてしまったことを主人は話してくれました。私の主人は転倒したリキシャにぶら下がってしがみついていたので無事でした。主人はすぐに私を探しましたが、私はリキシャの下敷きになっていたので見えませんでした。主人は「カヴィタ！ カヴィタ！」と叫びましたが、返事がありませんでした。私は気絶していたからです。そして主人はスワミの助けを呼びました。その途端、別のリキシャが客を乗せてどこからともなく現れました。運転手は主人が、

「病院はどこですか！？ 誰か私たちを病院へ運んでくれませんか！！」と、叫んでいる声を聞いて、スピードを落としました。運転手は即座に止まり、リキシャを降りて言いました。

「おじさん！ 私が病院にお連れしましょう！」

彼は私たちを助けたかったので、乗っていた客に他の乗り物を用意するので降りてほしいと頼んでいました。スワミでなければ、他に誰がこのようなことを成しえるのでしょうか？ インドではこのような事故があると、人々が寄って来てハンドバックや宝石や現金などが奪うのに最適なタイミングなのですが、驚いたことに人々は全員、私たちに救いの手を差し伸べてくださり、とても誠実に私たちの持ち物をすべて拾い集めて、主人に渡していただきました。

幸運にも、そのとき携帯電話が鳴りました。その電話は私たちの友人からで、なぜ私たちがまだ彼らの自宅に到着しないのか不思議に思って電話をかけてきたのでした。

主人はその友人に、私たちが彼の家のすぐ外で事故に遭ったことを話しました。友人はすぐに私のところに駆けつけてくれて、急いで近くの病院まで案内してくれました。しかし、そこには救急医療の設備がないとのことで、次にそこから 5 分ほどの近い病院に案内してくれました。その病院は新しい高等専門病院（ヒンドゥージャ最先端医療病院）でした。その間、主人は医者をしている義理の兄弟に電話をする時間があり、事態の全容を話すことができました。彼はすぐにヒンドゥージャ最先端医療病院の治療が受けられるように手配してくれました。これはもうひとつのスワミの奇跡ですが、その時の担当医が私たちの主治医の友人だったのです。インドではこのような事故に遭った場合、警察のレポートがなければ、このような最先端医療機関での治療が許可されません。スワミのおかげで、私たちが病院に到着するとすぐに治療が受けられるようにすべての準備が既に整えられていたのです。すべてのことがスワミのご意志により起こっていました。これは大事故から数分後から起こったできごとでした。事故後、出血がすぐさま応急処置できていなければ、どのような惨事になっていたことでしょうか。

最も重要な事実と奇跡とは、私の主人が元気（ほとんど無傷）だったことです。それは主人のスワミへの完全な信仰と神のご意志への完全な全託が故のことでした。もし車がリキシャの後輪ではなく中心部に衝突していれば、どんな結果になっていたか想像できることでしょう。スワミはこの体験を通して瞼が瞳を守るように、ほんの一瞬の内に、私たちを守ってくださることを示してくださいました。私たちがスワミへの完全な信仰を持ち、神のご意志に全託するなら、スワミは私たちの人生の面倒を完全にみてくださいます。

スワミは小さい事柄から大きな事柄まで、すべてを適切な場所に配置され、私たちの安全を詳細にわたって面倒をみてくださいました。私たちはスワミの存在、遍在を常に感じていました。神聖なる神のご加護により、優秀な医者の方、素晴らしい看護師たちに出会い、食事の面倒から細部にいたるまで、すべての事柄の面倒をみてくださいました。私の娘も（香港から）かけつけてくれまして、眠れない私のために一晩中ガーヤトリー マントラを唱えてくれました。スワミのバジャンの歌声のおかげで、部屋中が神聖で肯定的な波動に包まれ、ゆっくりとスワミは私にエネルギーを充電してくださいました。スワミは私の回復への道中、ずっと私に寄り添って助けてくださいました。主

人のスワミへの信仰が、再度、私に歩み続けさせたのです！ 私の一番好きなバジヤンは、「すべてのところに宿るサイ、苦しいときにも優しく包む」です。スワミの慈悲、慈愛は、いつも帰依者と共にあることを悟りました。

スワミはどんな些細なことも、大きいことも、面倒を見てくださいます。どんなときも私たちは遍在の神を意識することができます。そうして（神の遍在を意識する）ときのみ、私たちはスワミの慈悲と恩恵が、帰依者に常に降り注いでいることを悟ります。

私たちの過去のカルマが、今世で起こる出来事に繋がっています。しかしながら、私はスワミの次のような御言葉をご紹介します。

「中には、過去世から継承したもの（カルマ）は、今生で苦しまなければならず、どれほどの恩寵であっても、あなたをそれから救うことは出来ないと主張する人々がいるかも知れません。明らかに、誰かがあなたにそれを信じ込ませたのです。全能の神の恩寵には、際限も限界もありません！ あなたはそのようにカルマの苦しみを受ける必要がないことを、私が保証します。あなたが激しい痛みに苦しめられるとき、医師が痛み止めの注射を打つと、身体には痛みがあるにもかかわらず、あなたは痛みを感じなくなります。神の恩寵はその痛み止めの注射に似ています。神の恩寵を妨げるものは何一つ存在しません。もしあなたが神の恩寵を勝ち得れば、あなたはカルマの中を通りながらも、痛みを感じることはないでしょう。そのときは、あたかも有効期限を過ぎた薬が効かないように、カルマの影響も力を失うか、完全に消されてしまうのです！」

神のご意志に全託している帰依者の面倒を常にみてくださっている親愛なる母サイへの私の信仰と愛は、以前にも増して非常に強くなりました。主人は私が彼のような強い信仰を持つために、（模範となり）一役買ってくれました。

私はこの事故から完治するまでの間、多くの時間を自分の内に向かい、信仰を持つことがすべての中で最も大切なことだということを悟りました。信仰、帰依、そして全託はスワミを大変幸せにし、また私たちをも幸せに保つことができます。これがスワミのお誕生日に捧げることができる一番素晴らしい捧げものです。スワミが常におっしゃっていました通りです。「私にハッピー バースデーと願う必要はありません。私は常にハッピーです。私は皆さん全員にハッピーでいてもらいたいのです！！」

私のスワミへの信仰を 100%にしたこの体験を皆さんと分かち合いたかったのは、このような理由からでした。

スワミ、私が常にあなたへの信仰を 100%持ち続け、スワミが常に望んでおられるように、私たちが幸せでありますように、どうか祝福してください。